



キチジ オホーツク海南部 令和6年度資源評価結果

生物学的特性

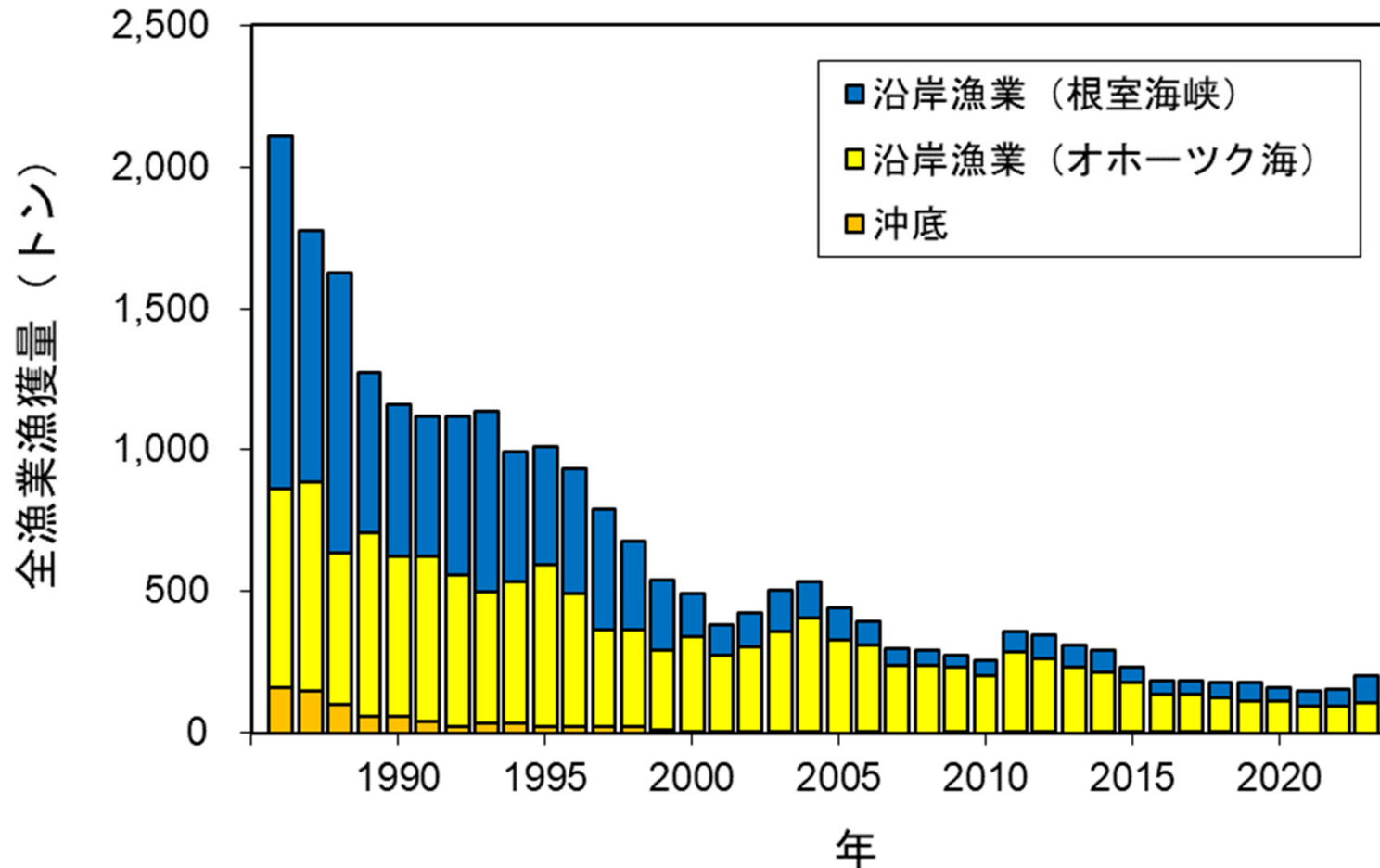


生物学的特性

- 寿命：不明
- 成熟開始年齢：不明
- 産卵期・産卵場：
北海道沖の産卵盛期は4～5月
で産卵場は不明、サハリン東
岸の産卵期は5～10月で産卵
場は水深400～1,100m
- 食性：
魚類、クモヒトデ類など
- 捕食者：不明

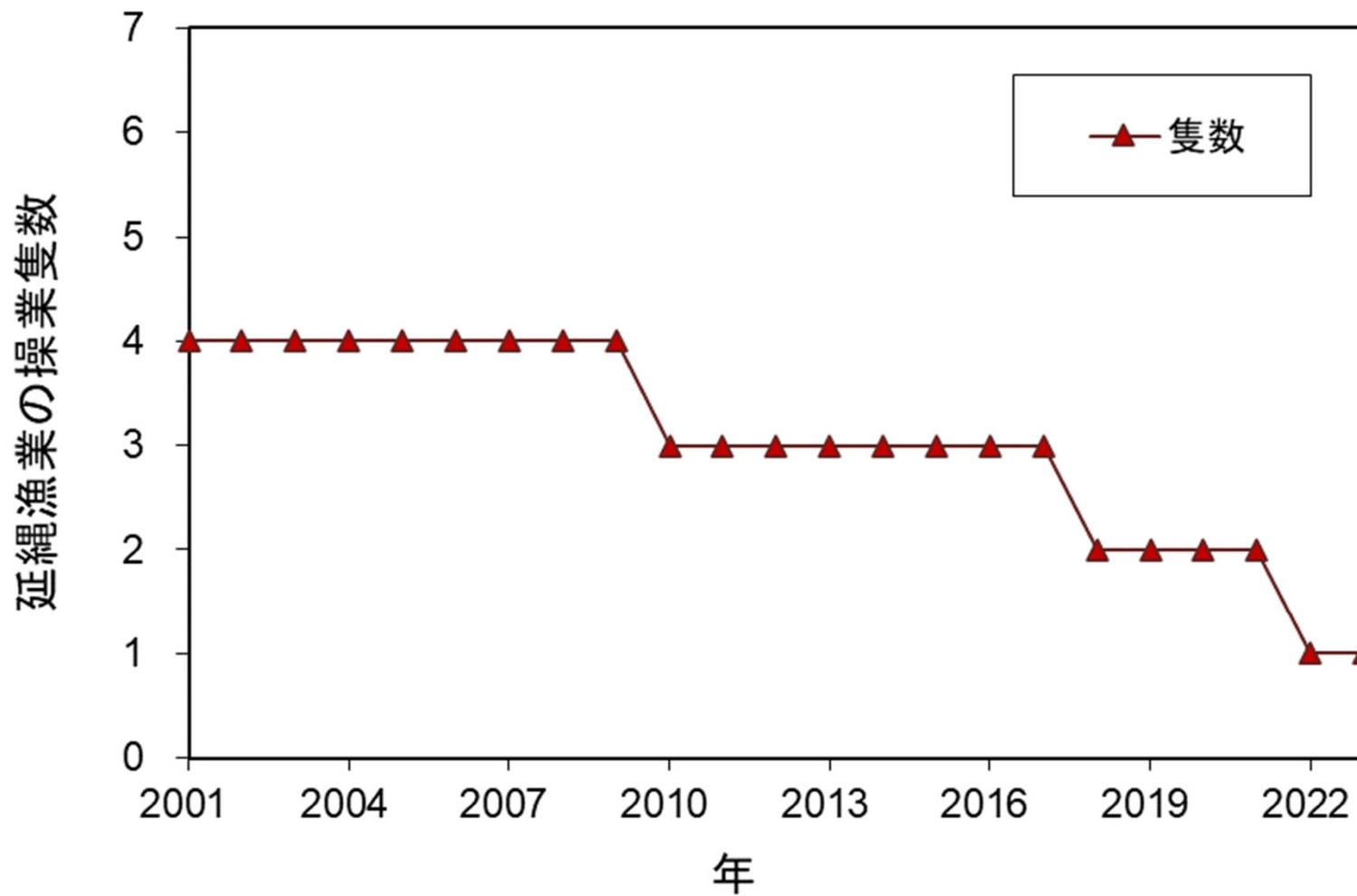
- 主な分布水深（漁場水深）は300～1,200m

漁獲の動向①



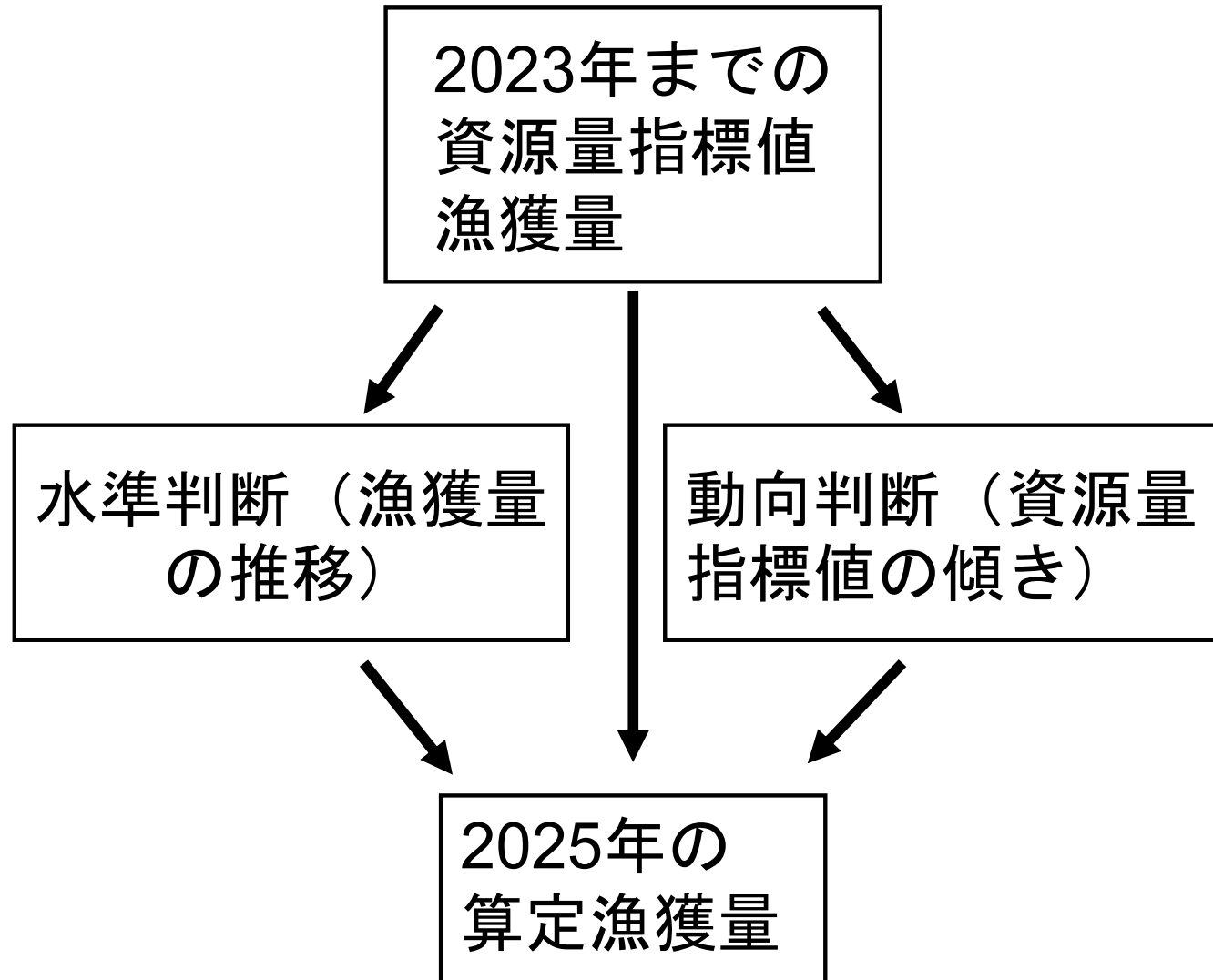
- 主漁法は沿岸漁業の延縄と刺し網
- 漁獲量は長期的にみて減少傾向
- 1986年に2,000トンを超えていた漁獲量(全漁業種合計)は、2023年は200トン

漁獲の動向②



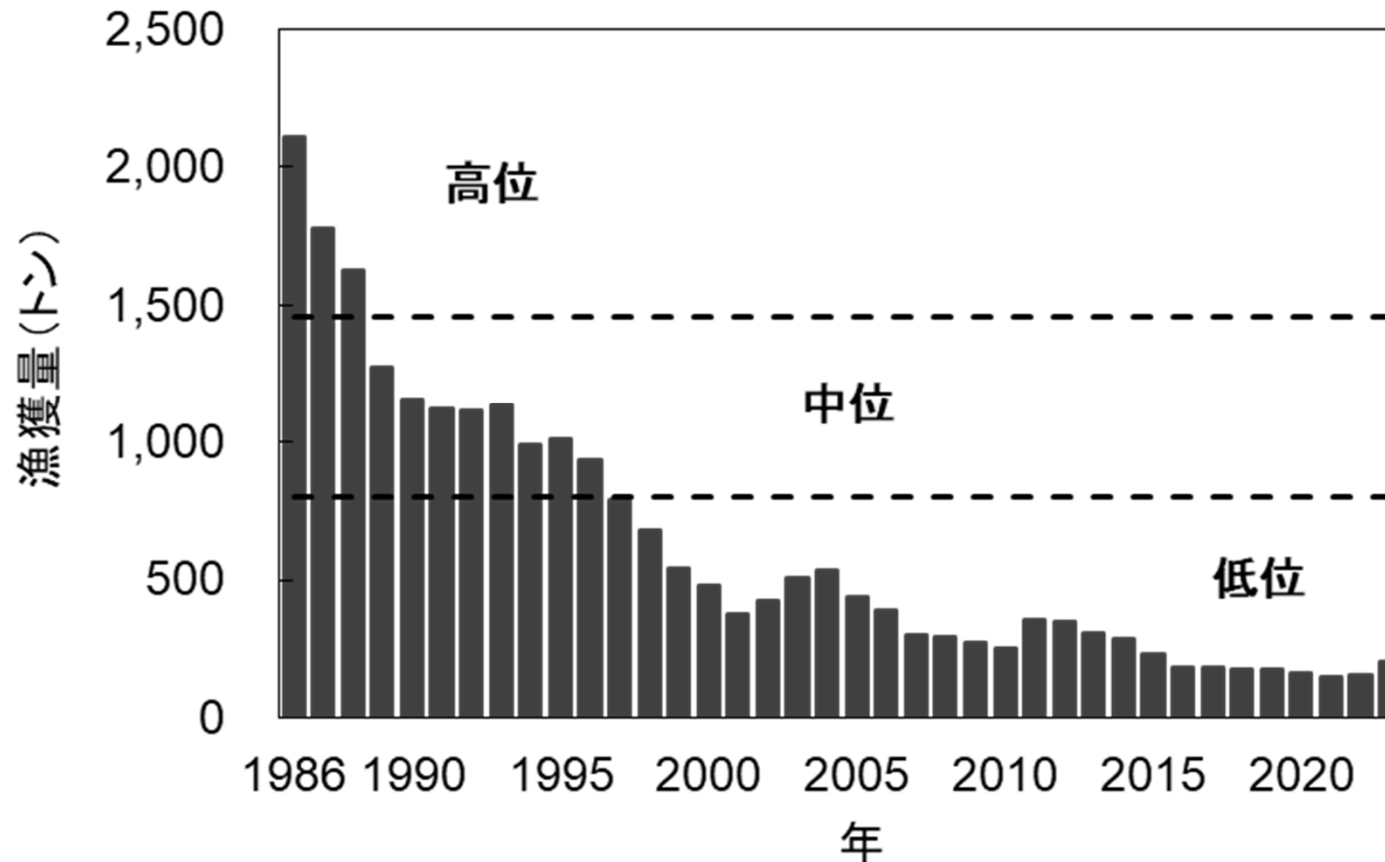
- 資源全体に対する漁獲努力量の推移は把握できていない
- オホーツク海の沿岸漁業の操業隻数は1995年以降に大幅減
- 延縄漁業の2001～2023年の操業隻数は1～4で推移

資源評価の流れ



※算定漁獲量は漁業法改正前の考え方に基づく基本規則を適用した値

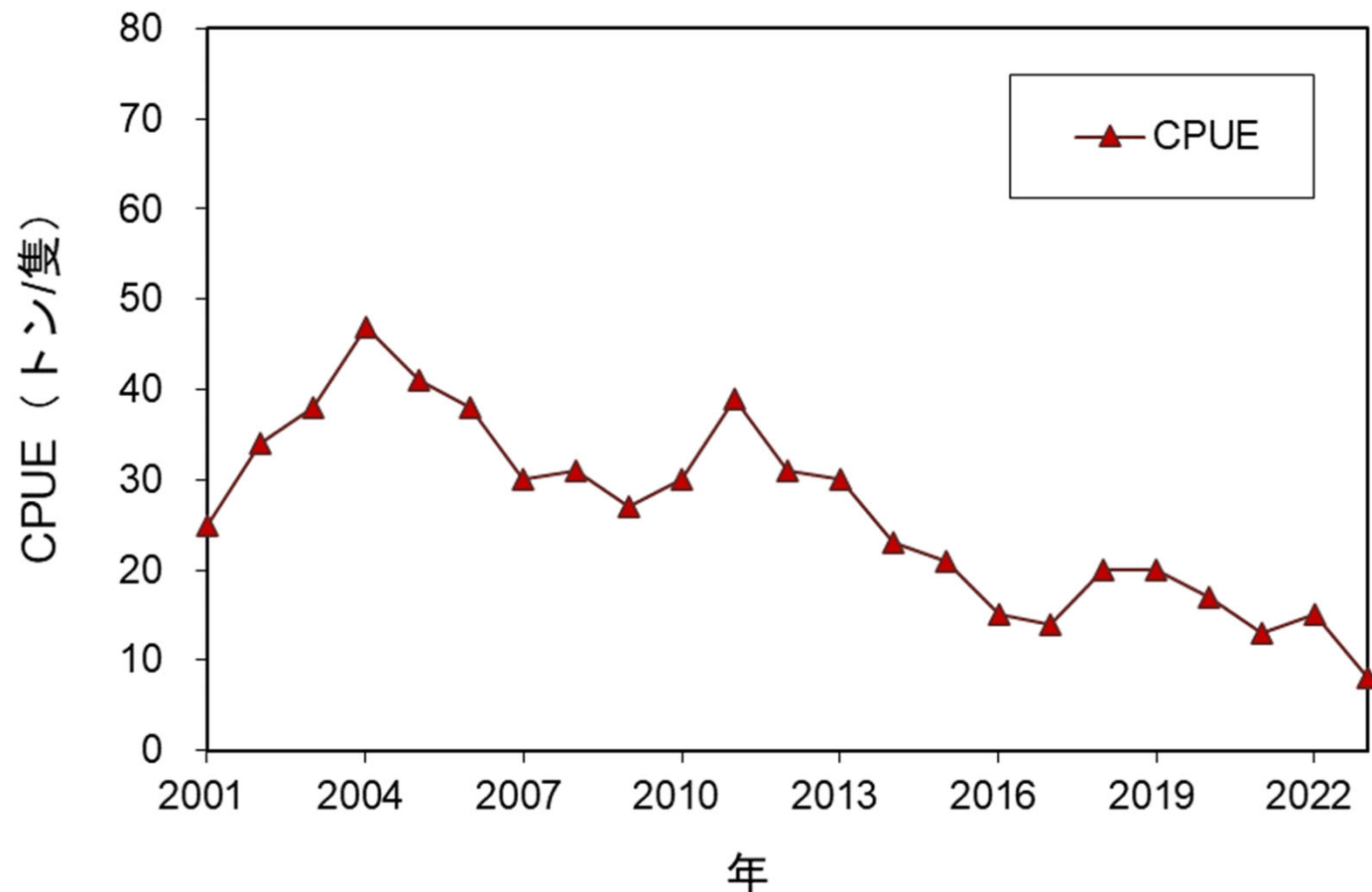
資源の動向①



※水準区分 低位／中位：漁獲量800トン、中位／高位：漁獲量1,454トン
(過去38年間(1986～2023年)の漁獲量の最高値～最低値の間を3等分して算出)

- 過去38年間(1986～2023年)の漁獲量の推移から資源水準を判断
- 資源水準：2023年の漁獲量は200トンであり「低位」

資源の動向②



- 資源量指標値（2001年以降の延縄漁業の操業隻数あたりの漁獲量（CPUE））により動向を判断
- 2023年の資源量指標値は 8トン/隻
- 資源動向：直近5年間（2019～2023年）の資源量指標値の推移から「減少」

資源評価のまとめ

- キチジ オホーツク海南部の資源水準は「低位」、動向は「減少」
- 漁獲量と延縄漁業のCPUEに基づいて資源状態を判断

2025年算定漁獲量

管理基準	Target/Limit	2025年算定漁獲量 (トン)	漁獲割合 (%)	F値(現状のF値からの増減%)
0.7・Cave3-yr・0.79	Target	70	—	—
	Limit	90	—	—

- またがり資源であることから、2025年算定漁獲量として提示
- 漁業法改正前の考え方に基づく基本規則の2-1) により、 $ABC_{limit} = \delta_1 \cdot Ct \cdot \gamma_1$ で計算
- δ_1 : 0.7 (低位水準での推奨値)
- Ct : Cave3-yr (直近3年間(2021~2023年)の漁獲量平均値)
- γ_1 : 0.79 (直近3年間の資源量指標値の傾きと平均値から算定される係数)